

**製品名: c-Fos ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08707**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	62kDa

**抗原情報**

遺伝子名	FOS
別名	FOS; G0S7; Proto-oncogene c-Fos; Cellular oncogene fos; G0/G1 switch regulatory protein 7
遺伝子 ID	2353.0
SwissProt ID	P01100
免疫原	抗血清はヒト Fos 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 331-380

**背景**

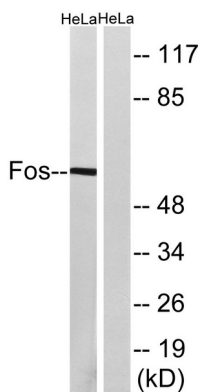
Fos 遺伝子ファミリーは、FOS、FOSB、FOSL1、FOSL2 の4つのメンバーから構成されています。これらの遺伝子は、JUN ファミリーのタンパク質と二量体を形成し、転写因子複合体 AP-1 を形成するロイシンジッパータンパク質をコードしています。そのた

め、FOS タンパク質は細胞増殖、分化、および形質転換の調節因子として関与していると考えられています。場合によっては、FOS 遺伝子の発現がアポトーシスによる細胞死と関連付けられることもあります。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能: JUN/AP-1 転写因子と強固だが非共有結合的な複合体を形成する核リン酸化タンパク質。ヘテロ二量体において、c-fos と JUN/AP-1 の塩基領域はそれぞれ、対称的な DNA の半分の部位と相互作用するようです。骨格の形成と維持を担う細胞の発生を制御する上で重要な機能を持っています。シグナル伝達、細胞増殖および分化において重要な役割を持つと考えられています。、PTM: SUMO1、SUMO2、SUMO3 によって恒常的に SUMO 化される。SENP2 によって脱 SUMO 化される。SUMO 化には JUN とのヘテロ二量体形成が必要であり、マイトジェン刺激によって促進される。SUMO 化は AP-1 転写活性を阻害し、それ自体が Ras 活性化 Thr-232 のリン酸化によって阻害される。、PTM: 神経成長因子 (NGF) および上皮成長因子 (EGF) による刺激により C 末端がリン酸化される。in vitro では MAPK および RSK1 によってリン酸化される。MAPK1/2 および RSK1/2 による Ser-362 および Ser-374 のリン酸化はタンパク質の安定化につながり、NGF 刺激によるタンパク質安定化の主な部位は Ser-374 のリン酸化である。Ser-362 および Ser-374 のリン酸化は、MAPK の DEF ドメインへのドッキングを促進することにより、Thr-325 および Thr-331 のさらなるリン酸化を誘導する。HA-RAS によって誘導される Thr-232 のリン酸化は、転写活性を活性化し、SUMO 化を阻害する。骨芽細胞における RSK2 による Ser-362 のリン酸化は、骨芽細胞の形質転換に寄与する。、類似性: bZIP ファミリーに属する。、類似性: bZIP ファミリーに属する。Fos サブファミリー。、類似性: 1 つの bZIP ドメインを含む。、サブユニット: JUN とヘテロ二量体を形成する。DSIPI と相互作用し、活性型 AP1 の標的 DNA への結合を阻害する。MAFB と相互作用する。、

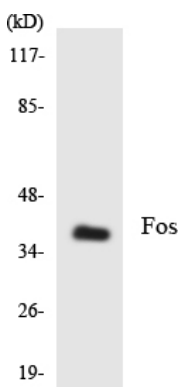
## 研究分野

MAPK\_ERK\_Growth;MAPK\_G\_Protein;Toll\_Like;T\_Cell\_Receptor;B\_Cell\_Antigen;がんにおける経路;結腸直腸がん;

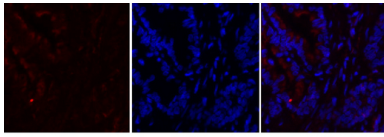
## 画像データ



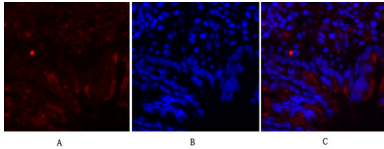
Fos 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



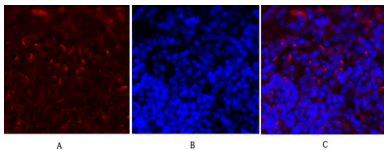
Fos 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



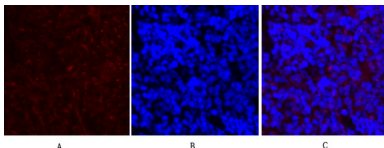
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, c-Fos ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



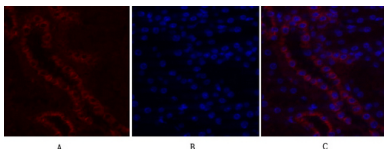
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, c-Fos ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



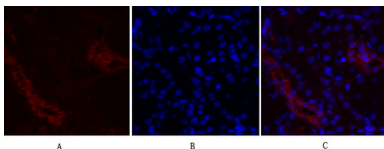
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, c-Fos ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



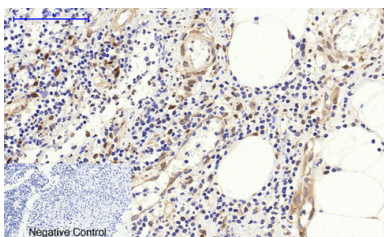
ラット脾臓組織の免疫蛍光染色。1, c-Fos ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, c-Fos ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



マウス腎臓組織の免疫蛍光染色。1, c-Fos ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



パラフィン包埋ヒト虫垂組織の免疫組織化学染色。1. c-Fos ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。